

「学生による授業評価」のまとめ 2022年度第3・第4クォーター刊行にあたって  
2023年6月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会  
委員長 服部 寛

南山大学では、1997年度から全学で「学生による授業評価」を実施してきた。この目的は、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることにある。

2017年度に、クォーター制の導入・名古屋キャンパスへの統合・授業評価のウェブ入力方式への変更がそれぞれ行われ、2020年度では科目選出方法が見直され、これらを通じて、現在の授業評価の実施形態の基礎が整えられた。2020年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により、2020年度・2021年度と、大学の授業の形態も、オンライン授業の導入や対面・オンラインのハイブリッド授業の実施のような、これまでにない形態で授業を実施するなど深い影響を受けた。「学生による授業評価」も、2020年度第1クォーターは実施せず、また授業形態の複数化（オンライン授業、対面授業、ハイブリッド授業）に対応するように、設問内容の変更が行われた。2022年度第1クォーター・第2クォーターではコロナ禍前の対面授業にほぼ全科目が戻り、キャンパスも「通常」に復帰し、これに続く形で、第3クォーター・第4クォーターも、教室の収容率のさらなる緩和がはかられた（これまでのコロナ禍の授業評価のあり方については、2020年度～2022年度第1クォーター・第2クォーターまでの「学生による授業評価結果の概要」のまとめの項／頁を参照されたい）。

なお、この「学生による授業評価」に関する情報のうち、

・基本的な情報は、

「南山大学ホーム」>「日本語トップ」>「南山大学 教育企画・研究推進課」>「授業評価」  
<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyou/>

・「学生による授業評価」の結果の概要については、

「南山大学ホーム」>「総合案内」>「南山の取組」>「各種評価活動」  
<https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hyoka.html>

に掲載されている。

## 1 授業評価の実施方法

### ① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第3・第4クォーター合わせて合計447科目が授業評価の対象となった。

## ② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。

設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。

設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。

設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。

設問8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は【3 どちらとも言えない】を選択してください。

設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問10：授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。

設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。

設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

## ③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

## ④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の

分析・検討を行っている。

	第3クォーター	第4クォーター
授業評価の実施	2022年10月24日～ 2022年11月11日	2023年1月6日～ 2023年1月25日
集計作業	2022年11月14日～ 2022年11月16日	2023年1月26日～ 2023年1月30日
教員への集計結果の通知	2022年11月17日	2023年1月31日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2022年11月17日～ 2023年2月15日	2023年1月31日～ 2023年2月15日
『『学生による授業評価』のまとめ』の発行	2023年6月	2023年6月

## 2 集計結果の概要

### ① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。今回の対象期における全体の数値は、第3クォーター「41.97%」・第4クォーター「45.10%」であった。前年度の第3クォーター「44.50%」・第4クォーター「47.90%」と比較すると、第3・第4クォーターとも下落している。規模別回答率ごとに注目すべき数字を挙げると、第3クォーターの「61～120名」の回答率の「35.40%」は、当該項目において最も低い数字となってしまった。「241名以上」の回答率も低く、特に第3クォーターの「34.71%」は、2018年の第4クォーターの「30.61%」と2019年代第4クォーターの「34.67%」に次ぐ過去3番目に低い数字となっている。「30名以下」・「31～60名」の数値は上昇が見られることと対照的であり、中規模・大規模の講義における回答率の落ち込みが、全体の回答率の低下に及ぼす影響が大きいことを見てとることが可能である。回答率の改善にあたっては、中規模・大規模の授業における回答率の増加が大きな課題であると判断せざるを得ない。

表1 回答率(2019年度第3クォーター～2022年度第4クォーター)

	2019 Q3	2019 Q4	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	2020 Q4	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4
全体	42.16%	46.23%	実施 せず	52.42%	42.25%	41.51%	48.05%	50.30%	44.50%	47.90%	49.01%	46.89%	41.97%	45.10%
30名以下	62.32%	65.42%		68.86%	48.77%	50.22%	62.11%	70.02%	51.66%	58.78%	69.35%	65.55%	57.09%	59.02%
31～60名	46.19%	51.36%		54.99%	39.65%	42.54%	53.04%	56.27%	46.25%	52.79%	57.93%	55.00%	49.53%	51.53%
61～120名	39.45%	45.43%		52.44%	40.29%	38.40%	42.26%	48.70%	41.78%	48.63%	48.36%	46.71%	35.40%	42.60%
121～240名	38.65%	41.80%		49.70%	41.43%	37.00%	46.30%	44.67%	42.21%	43.52%	40.98%	40.53%	42.41%	41.74%
241名以上	35.58%	34.67%		48.20%	46.64%	43.32%	45.34%	48.84%	46.39%	42.07%	47.74%	42.55%	34.71%	40.27%

※例年、各表では、対象となるクォーターを含めた10期分のデータが挙げられているが、

今回は、コロナ禍に入る前までの2019年度のデータも参考として掲載している。

### ② 報告書提出について

授業評価を行った後に、教員より自己点検・評価報告書を提出していただいている。2022年度第3クォーターは全員から提出されたが、第4クォーターにおいて、1件の報告書非提出が発生している(報告書の提出99.53%、非提出0.47%)。次年度に向けて、全件の期限内の提出が実現されるよう、ご理解とご協力をお願いしたい。

### ③ 項目3から14の評定平均値について・項目ごとの評定平均値について

表2を見ると、「項目3から14の評定平均値」について、第3クォーター・第4クォーターそれぞれ「4.40」および「4.47」であり、昨年度の第3クォーター・第4クォーターの値と入れ替わるような形で、低下および上昇した。

表3は、各設問項目の数値の推移を示している。第4クォーターにおいては前年度の同時期のものに比べて上昇しているものを確認できるが、第3クォーターにおいては、どの項目でも、前年度の同時期と比較して低下が見られる。どれも4点台をキープしているという点ではまだ高い水準にあるが、「授業への興味」「授業時間の厳守」「妨げ行為への対処」について、0.1ポイント以上下落している。このうち、後2者については、授業の形式的な側面に関わるものであって、学生が対面で一堂に会するのが常であったコロナ禍前の授業運営の形式を改めて想起して頂き、定時での授業の開始・終了や妨げ行為の注意をお願いしたい。

なお、本「まとめ」では、これまでの過去3年度分の数値が比較対象となっており、こうした作成上のデータを見ると、2020年度～2022年度へと(年度ごとでかつ各クォーターごとにとみると)漸次的に各項目の数値の低下が見られる悩ましい状況にあるが、コロナ禍に入る前の2019年度の第3・第4クォーターにおける「項目ごとの評定平均値」を比較対象にもってきた場合、今回の2022年度の第3・第4クォーターと概ね同程度の数値であることを参考までに付言しておきたい。コロナ禍に入って間もない2020年度の各クォーター(第1クォーターは除く)において各項目の数値が上昇しており、以降、下降していくように見ることができ、この点は、オンライン授業(もしくはハイブリッド)への(自己)評価のいわば特殊时期的な局面をどのように判定するのかという点にも関わる。本格的に対面授業が再開されるにあたり、コロナ禍以前のデータの数値も、参照の値として引き合いに出すことも、精確な評価と今後の改善の展望に際して有益であるものと思案される。

表2 項目3から14の評定平均値(2019年度第3クォーター～2022年度第4クォーター)

年度 学期	2019 Q3	2019 Q4	2020 Q1	2020 Q2	2020 Q3	2020 Q4	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4
全体	4.37	4.43	実施 せず	4.43	4.44	4.43	4.43	4.45	4.47	4.40	4.48	4.47	4.40	4.47

表3 項目ごとの評定平均値(2019年度第3クォーター～2022年度第4クォーター)

	設問項目 (2017Q1～)	2019	2019	2020	2020	2020	2020	2021	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2022
		Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
1	授業への興味	4.1	4.18	実施 せず	4.16	4.12	4.20	4.10	4.12	4.13	4.06	4.07	4.12	4.00	4.11
2	授業への取り組み・ 自主的な学習の実行	4.08	4.13		4.22	4.18	4.22	4.18	4.17	4.15	4.08	4.17	4.14	4.08	4.14
3	授業時間の厳守	4.64	4.63		4.73	4.72	4.67	4.74	4.70	4.75	4.64	4.72	4.68	4.62	4.65
4	構成や速度が適切	4.42	4.49		4.48	4.49	4.47	4.48	4.49	4.51	4.46	4.52	4.53	4.44	4.54
5	到達目標の理解	4.15	4.24		4.19	4.17	4.21	4.16	4.18	4.18	4.16	4.24	4.23	4.14	4.25
6	到達目標の達成	4.09	4.16		4.10	4.11	4.14	4.07	4.11	4.12	4.08	4.16	4.15	4.07	4.15
7	教員の姿勢	4.52	4.54		4.60	4.60	4.57	4.58	4.60	4.63	4.53	4.63	4.62	4.57	4.61
8	教員の声	4.57	4.58		4.48	4.56	4.53	4.60	4.59	4.63	4.60	4.64	4.61	4.56	4.60
9	理解度への配慮・ 板書、配付資料	4.42	4.48		4.44	4.47	4.45	4.46	4.47	4.50	4.46	4.53	4.51	4.45	4.52
10	妨げ行為への対処	4.44	4.50		4.64	4.67	4.71	4.72	4.70	4.74	4.66	4.69	4.70	4.62	4.66
11	意欲を引き出す工夫・ 自主的な学習の指導	4.25	4.33		4.28	4.32	4.30	4.26	4.31	4.35	4.25	4.34	4.34	4.26	4.35
12	質問や相談の機会	4.37	4.42		4.45	4.49	4.44	4.42	4.46	4.48	4.36	4.46	4.49	4.41	4.45
13	知識・理解の深まり	4.34	4.40		4.39	4.39	4.37	4.38	4.40	4.39	4.36	4.44	4.43	4.36	4.44
14	全体としての満足度	4.28	4.36		4.33	4.34	4.33	4.30	4.35	4.36	4.30	4.39	4.38	4.29	4.39

### 3 教員ごとの結果の見方

「7 自己点検・評価報告書」に記載されている頁番号(丸括弧がないもの)の箇所では、教員ごとの結果を示している。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

- ① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など**
- ② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

### 4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために行われている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を基礎として、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討する。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

今回の授業評価アンケートの実施の期間である2022年度第3・第4クォーターでは、原則対面授業(一定の教室定員制限あり)となつてから、第1・第2クォーターに引き続い

ての実施となった。教室の定員の制限や、授業中(特に講義中)のマスク着用をはじめとしたコロナ禍における諸制約は緩和されつつあれなおも継続するなかで、対面授業が改めて実施されるにあたって、少なからぬ困難があったように見受けられる。いよいよ2023年度からは、原則として対面授業となり、教室の収容率も100%で実施されることとなる。コロナ禍以前にただ戻すのではなく、「新しい現状」を作り出す努力が求められているなか、授業評価についても、コロナ禍前の2019年度よりも上向きになっていくことが期待されるであろう。これまでのオンライン授業やハイブリッド授業の、教員また学生の側の経験を改めて踏まえながら、対面授業が一層充実した形で行われていくことが期待される。

ただ、そもそものデータの基礎になる「回答率」は、年々、低下していく傾向がコロナ禍以前を含め確認され得るところである。この点に関する対策を講じ、データの信頼度を高めていこう、アンケートのあり方についても、そろそろ検討する必要があるかもしれない。と同時に、各教員また学生から、ぜひとも積極的にアンケートの回答にご協力頂くよう、お願いする次第である。

以上